

夏休みの思い出（太鼓）

田中野田子供会 上野 貴司

夏休みの8月7日、田中野田夏まつりがありました。今年もまつり太鼓があり、ほくも参加しました。太鼓の練習は、7月4日から週3回で、7時半から9時ごろまでありました。ほくは4年生、5年生、6年生とずとしてきたので、みんなより早く覚えることができました。

今年は、3年生から6年生まで太鼓をすることになったので、人数も多くなりました。初めて参加する3年生や、4年生もいっと早く覚えることができたと思います。

本番の太鼓の時は、みんな緊張しているようで、声あまり出ませんでしたが、手を上げる所はよく上げられたと思いました。

3年間太鼓をやってきて、よい思い出ができたと思う。これからも太鼓は、続けてもらいたいと思います。

キャンプ

田中野田子供会 香山 茜・小林 美奈

8月28・9日のキャンプは、みんなねないで夜中まで遊んでいた。早くねる人もいたけど、ねないで遊んでいる方が楽しいという人が多かった。大人に見つからず他のテントに遊びに行く時、スリルがあっておもしろいし、くらい中での遊びもおもしろかった。

ごはんを作る時、玉ねぎが目にしみていたり、大きさがバラバラになったりしたけど、おいしいカレーができてよかった。

今年のキャンプファイヤーは、いつもよりみんなよるこんでいた。

とくにバツゲームが、いつもよりこってって楽しかった。花火もたくさんできたし、すいかわりもおもしろかった。

楽しかったキャンプもわたしたち6年生にとっては今年が最後でした。来年も参加できたらいいなと思います。

9 3 秋祭りのお知らせ

10月16日(土) 17日(日)

- 16日 町内練り歩き
- 17日 白髭神社



わが郷土を語る（その18）

中尾 佐之吉

「大森喜一先生頌徳碑」にきく

御南中学校々庭の東南の隅に、昭和32年に建てられた「大森喜一先生頌徳之碑」があるのは、皆さんもご存じのことと思う。しかしその謂われはとなくどう

であろうか。また、「大森先生」がどういふ方かは知らない人が多いのではなかろうか。

と云って、私も勿論先生と面識があったわけではなく、先生のこと、石碑にきく以外に方法がないのである。幸い裏の碑文が語ってくれようである。

碑文は別掲のとおりであるが漢文調になっているので、私なりに現代風（つづのば）意識してみた。双方を読んでいただければ幸いである。

（碑文は全て旧漢字であるが、別掲は現代漢字をつかった。例、學=学 また、本文の終りから2行目の「佛」の字は碑の文字が判然としないので推定である。）

大森喜一先生は、明治7年5月御野郡今村辰巳（注1）に生まれる。（小学校からさらに）岡山中学校（注2）に学び、卒業後今村小学校へ20年間奉職された。そして、村内では慈父の如く敬仰される。後、関西中学校理事長をされ、また、今村産業組合を創設された（注3）。大正12年には県会議員に選ばれ県政にも力を尽くされその功績は顕著であった。なかんずく、御津郡南部の発展には笹ヶ瀬川改修を実施するにありとし、幾多の困難を克服されて昭和7年着工、7年の歳月と百数十万円の費用（注4）を費やして昭和

13年その完成をみたのである。惜しいかな翌年6月、にわかになられた。享年65歳であった。先生は資性寛厚で、公のためには私を顧みない、所謂「身を殺して仁を成す」の方でした。（注5）

今や御南地方面目一新、御南中学校・予防会病院・後保護指導所県養鶏研究所・国立職業補導所等（注6）幾多の近代施設が美観を呈し、往年の干拓当時（注7）の姿と比べれば実に隔世の感あり、これ皆先生の遠見の結晶なりと云うべきである。

偉大なるかな先生の徳、先生逝去されて20年。ここにおいて、先覚の恩恵をうけた者たちが相謀り、その面影を永久に伝えるため碑を建てようとの意向により、荒木清志君（注8）から友人を介して碑文の作成を求められた。私は、有志諸氏の美事に感激し不文をも顧みず事蹟の梗概を叙して責を誦んだ次第である。

大森喜一先生明治七年五月生御野郡今村辰巳岡山中学校卒業成春職  
 今村小学校二年間任教仰知慈父後為岡山中学校理事兼校長創設今村産業  
 組合大正十二年遷県会議員致力県政功績顯著教中御津郡南部の発展幸為  
 有笹ヶ瀬川改修完履幾多困難昭和七年着工費歳月與百數十万円同十  
 三年見其完成完備哉翌年六月卒然逝逝年六十有五先生資性寛厚為公不  
 顧私所謂殺身成仁者乎今也御南地方面目一新御南中学校予防会病院後保  
 護指導所県養鶏研究所国立職業補導所等呈幾多近代施設之姿觀較之往  
 年干拓當時之姿矣有隔世感矣可謂是皆先生遠見之結晶也偉哉先生徳先  
 生逝去二十年念先覺遺澤者齊謀建碑以欲佛不朽介友人荒木清志君來求  
 文有志諸氏美事不堪感激乃不顧不文叙事蹟梗概責誦

昭和三十三年三月二十日建  
 万波 憲治 撰 井 井

碑文と書の作者の万波憲治氏のことは、残念ながらよく分らない。現在、今地区は都市化が進展し大きく変容してしまつた。「隔世の感」を一層深くしながら先生の碑を仰ぐのである。

- 注1 先生の出生当時は「御野郡辰巳村」で当地「田中村」の東隣りである。
- 注2 「岡山中学校」は現「岡山朝日高校」の前身
- 注3 今村産業組合は、今村信用生産組合として大正9年設立された、そして先生が初代組合長になられた。
- 注4 笹ヶ瀬川改修工事は、国の施工で費用は115万円とか（今村史による）現在の貨幣価値に直すと23億円位と云えようか。
- 注5 当時の県会議員は名誉職的存在、信用組合長も責任こそ重けれ無報酬的処遇ではなかったかと思える。先生は職務のために多額の私財を投ぜられたときく。
- 注6 現在は、後保護指導所は岡山西養護学校に、養鶏研究所は社会福祉センターに、職業補導所は技能開発センターに変わっている。
- 注7 上記諸施設は、笹ヶ瀬川改修工事によってできた干拓地に建設されたのであるが、それは戦後のことで、改修工事が完成した頃の干拓地は草ぼうぼうの状態であった。
- 注8 荒木清志氏は今村出身で、当時株式会社荒木組（建設会社）の社長であった。



大森喜一先生頌徳碑

